



令和 2 年 7 月 16 日
港湾局海洋・環境課

ジャパンプルーエコノミー（JBE）技術研究組合の設立を認可しました ～我が国初となるブルーカーボンに関する技術研究組合～

国土交通省は、下記の申請時組合員から提出された設立認可申請書について、技術研究組合法第 13 条第 2 項の要件を満たすと認められるため、令和 2 年 7 月 14 日付で設立を認可しました。

記

名 称：ジャパンプルーエコノミー技術研究組合

所 在 地：神奈川県横須賀市長瀬三丁目 1 番 1 号 港湾空港技術研究所内

設立時組合員：国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所（理事長：栗山善昭）
公益財団法人笹川平和財団（理事長：角南 篤）
桑江 朝比呂

理事長（予定）：桑江 朝比呂

事業概要： (1) 沿岸域におけるブルーカーボン等の定量的評価
(2) 沿岸域におけるブルーカーボン等の技術開発
(3) 社会的コンセンサスの形成
(4) 新たな資金メカニズムの導入

<添付資料>

- 別紙 1：ジャパンプルーエコノミー（JBE）技術研究組合の設立
- 別紙 2：認可書交付式の様子
- 別紙 3：ジャパンプルーエコノミー技術研究組合の資料

【お問合せ先】

国土交通省 港湾局 海洋・環境課 渡邊、栗田

電話：03-5253-8111（内線 46654、46682）、03-5253-8685（直通）、03-5253-1653（FAX）

背景・目的

ブルーエコミー：海洋資源の持続可能な利用を通じて経済成長の実現を図る活動

- 沿岸域における気候変動対策を促進し、海洋植物によるブルーカーボンの定量的評価、技術開発及び資金メカニズムの導入等の試験研究を行うため、技術研究組合法に基づく法人として、「ジャパンプルーエコミー（JBE）技術研究組合」を設立する。
- ブルーカーボン等に関する試験研究を行う技術研究組合の設立は、我が国初となる。

設立時組合員

(国研) 海上・港湾・航空技術研究所

(公財) 笹川平和財団

桑江 朝比呂

役員(案)

理事長 桑江朝比呂 (国研) 海上・港湾・航空技術研究所
港湾空港技術研究所 沿岸環境研究G長

理事 信時 正人 神戸大学 客員教授

理事 渡邊 敦 (公財) 笹川平和財団海洋政策研究所

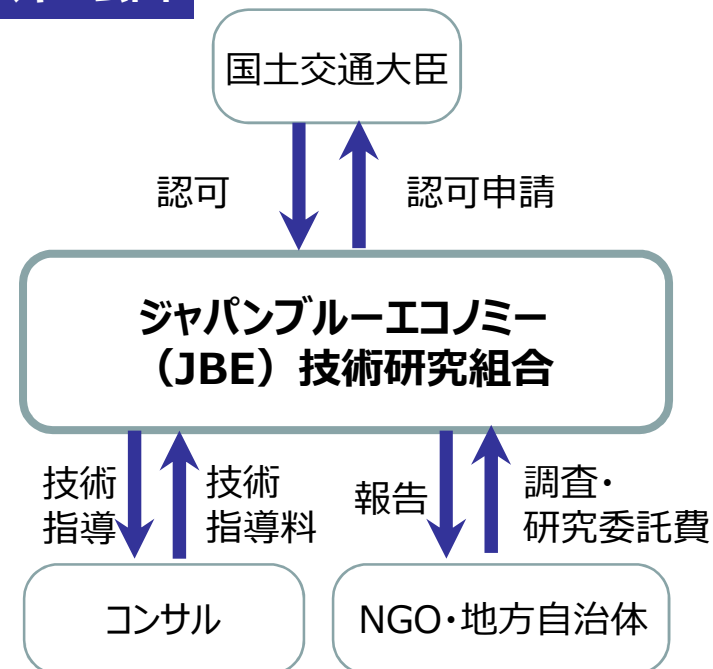
監事 八代 輝雄 公認会計士

事業概要

以下の試験研究を行う。

- (1) 沿岸域におけるブルーカーボン等の定量的評価
- (2) 沿岸域におけるブルーカーボン等の技術開発
- (3) 社会的コンセンサスの形成
- (4) 新たな資金メカニズムの導入

スキーム図



設立認可日

令和2年7月14日



(公財) 笹川平和財団
海洋政策研究所
渡邊主任研究員

高田港湾
局長

(国研) 海上・港
湾・航空技術研究所
栗山理事長

桑江沿岸環境研究
グループ長



認可書交付式の様子



認可書交付
[左]高田港湾局長 [右]栗山理事長



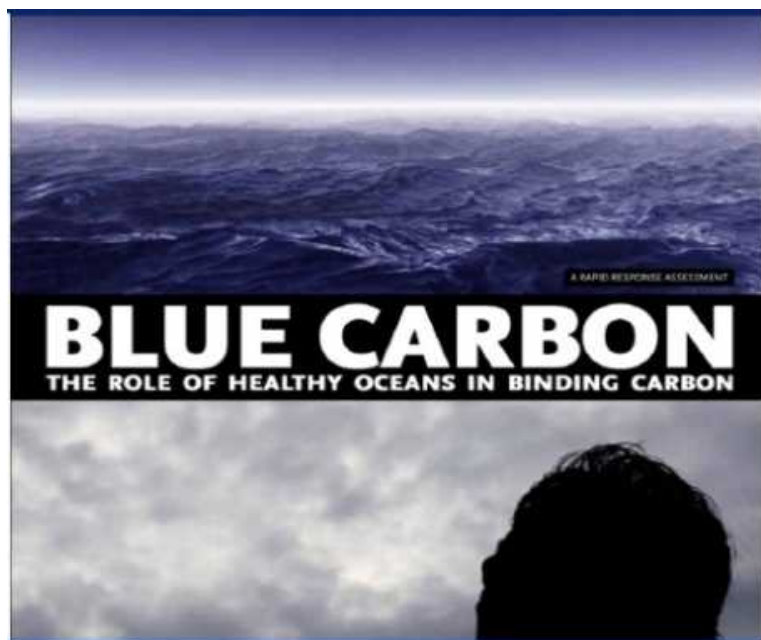
代表的な海草「アマモ」



報道記者による囲み取材の様子

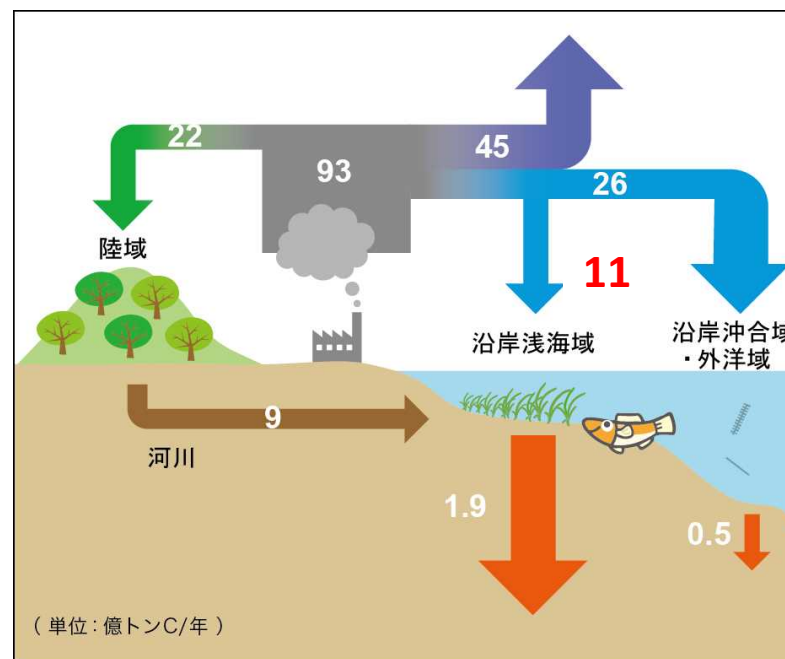
- ◆ 2009年10月に国連環境計画（UNEP）の報告書において、**海洋生態系に取り込まれた（captured）炭素が「ブルーカーボン」と命名**され、吸収源対策の新しい選択肢として提示
- ◆ 四方を海に囲まれた日本にとって、沿岸域の吸収源としてのポテンシャルは大きい。ブルーカーボンの活用にあたっては、その評価方法や技術開発の確立が重要

国連環境計画（UNEP）の報告書
「ブルーカーボン」



海表面の0.2%程度にあたる沿岸浅海域では、炭素が1.9億t-C/年（地球全体の80%近く）の速さで海底に貯留

炭素循環のイメージ



排出された二酸化炭素のうち、一部が陸域（22億t-C/年）や海洋（26億t-C/年）に吸収

「藻場」

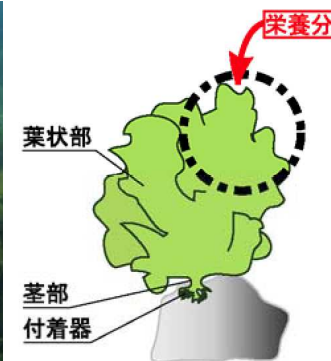
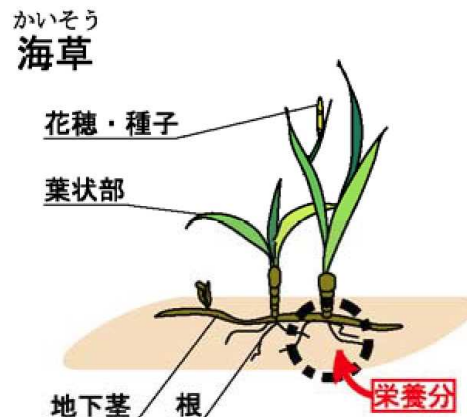
大型藻類や海草が、濃密で広大な群落を形成している場所
 (環境省自然環境保全基礎調査では、「面積1 ha以上、水深20 m以浅」の群落)

「海草 (うみくさ) 藻場」

- ◆ 主に温帯～熱帯の静穏な砂浜や干潟の沖合の潮下帯に分布
- ◆ 根・茎・葉が分かれている維管束植物 (種子植物)。砂や泥などの堆積物中に根を張って固定
- ◆ 代表的な海草：アマモ、コアマモ、スガモ

「海藻 (うみも) 藻場」

- ◆ 主に寒帯～沿岸域の潮間帯から水深数十mまでの岩礁海岸に多く分布
- ◆ 根・茎・葉の区分がなく、岩などに固着
- ◆ 代表的な海藻
 緑藻・・・アオサ
 褐藻・・・コンブ, ワカメ
 紅藻・・・テングサ等



「干潟」

- ◆ 海岸部に砂や泥が堆積し勾配がゆるやかな潮間帯の地形。水没～干出を繰り返す
- ◆ 環境省の定義では「干出幅100 m, 干出面積1 ha, 移動しやすい基質（砂、礫、砂泥、泥）



上：松島湾（宮城県），下：谷津干潟（千葉県）

「マングローブ」

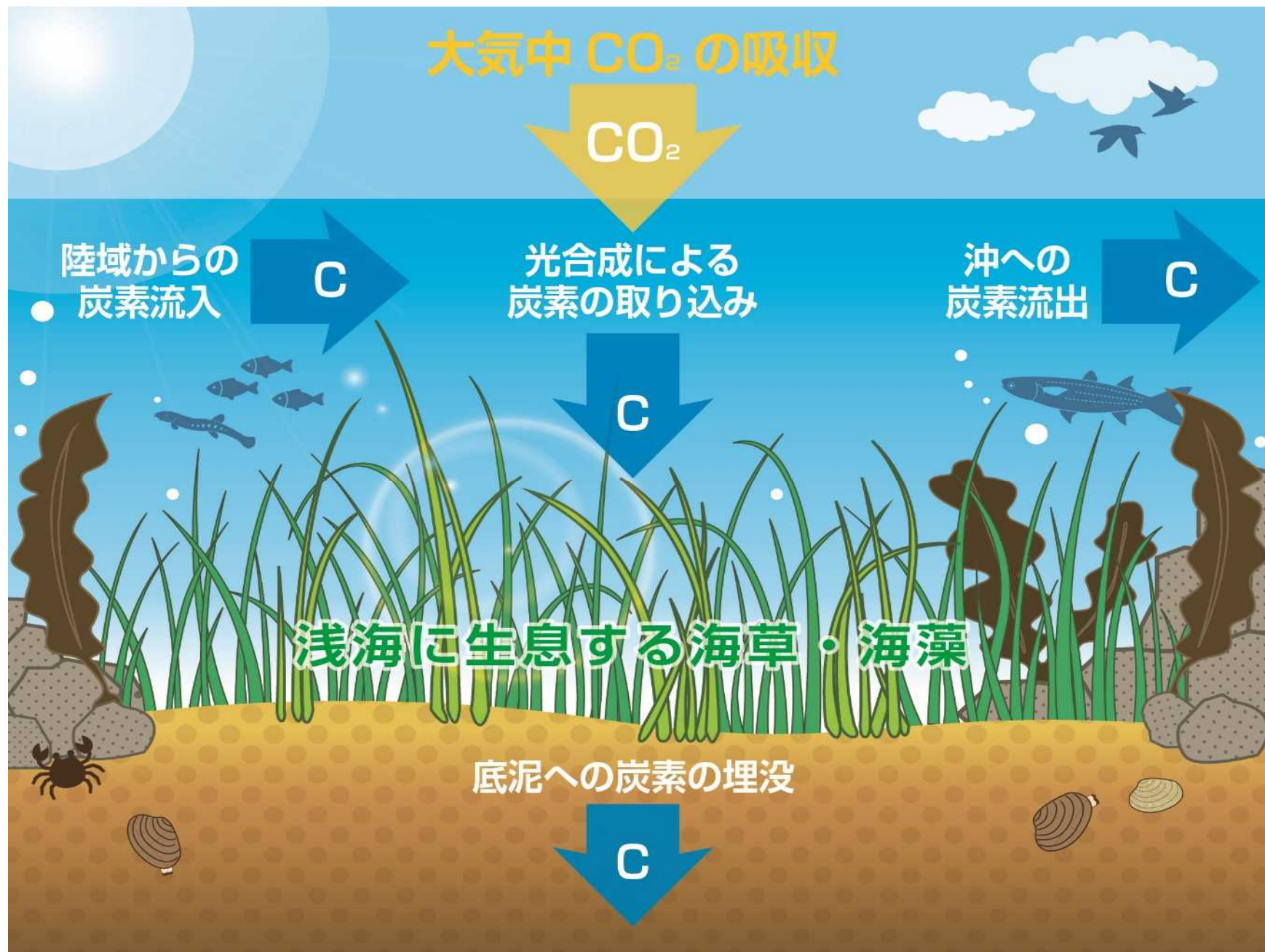
- ◆ 熱帯、亜熱帯の河川水と海水が混じりあう汽水水域で砂～泥質の環境に分布。国内では鹿児島以南の海岸に分布
- ◆ 代表的なマングローブ植物：
オヒルギ、メヒルギ、ヤエヤマヒルギ



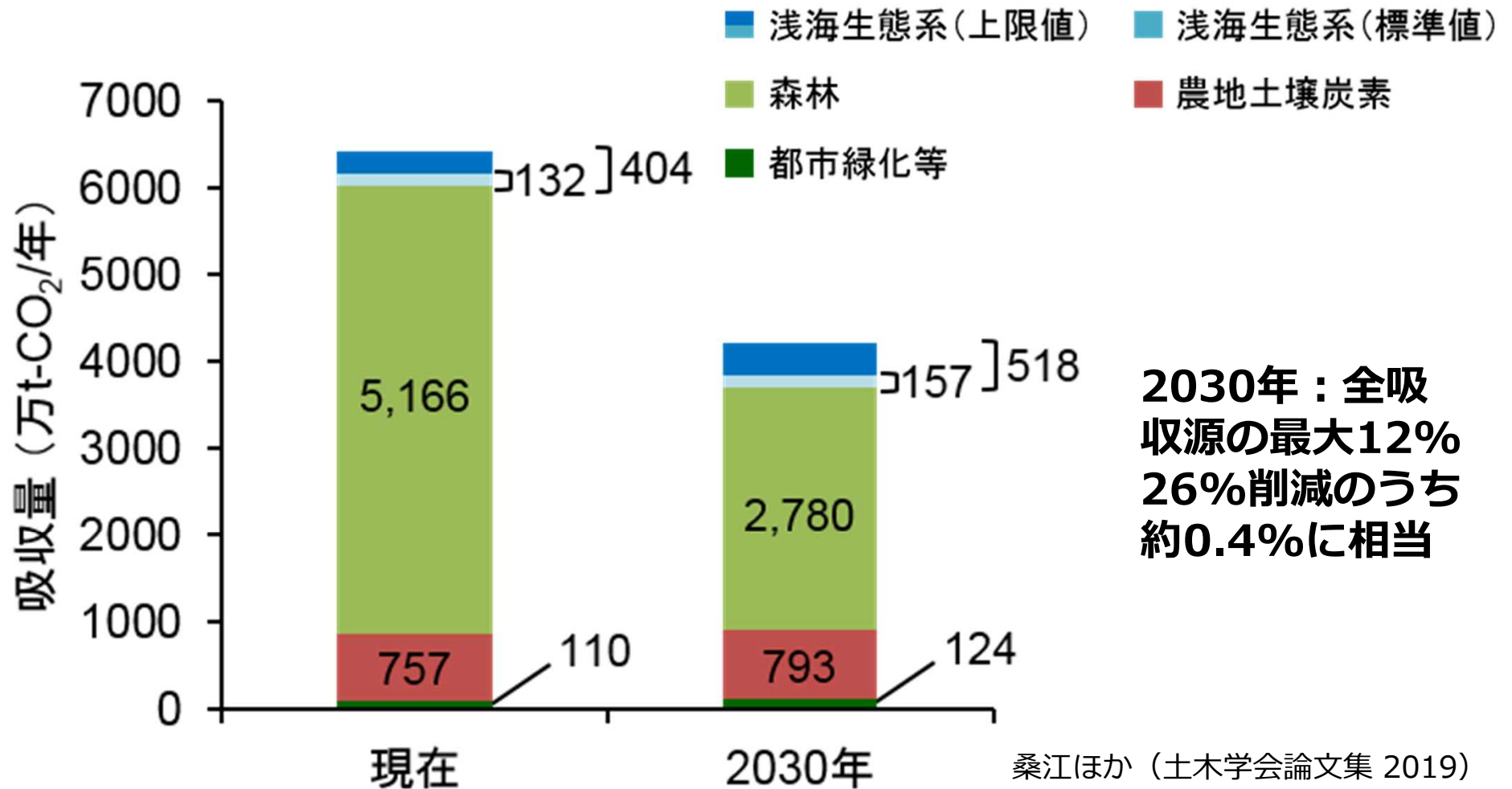
西表島



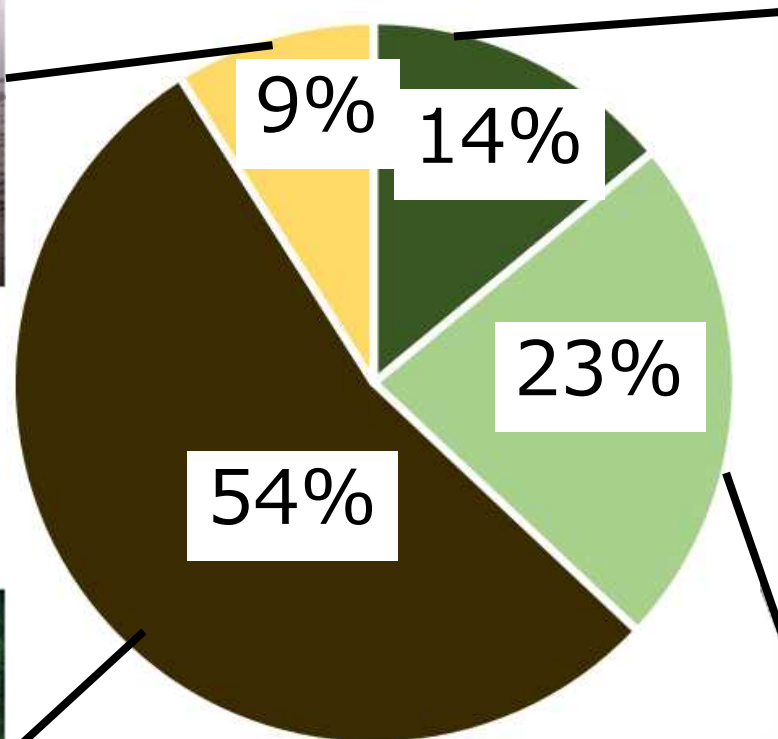
メヒルギ群落



我が国のブルーカーボンによる吸収量 ：約130~400万トン/年

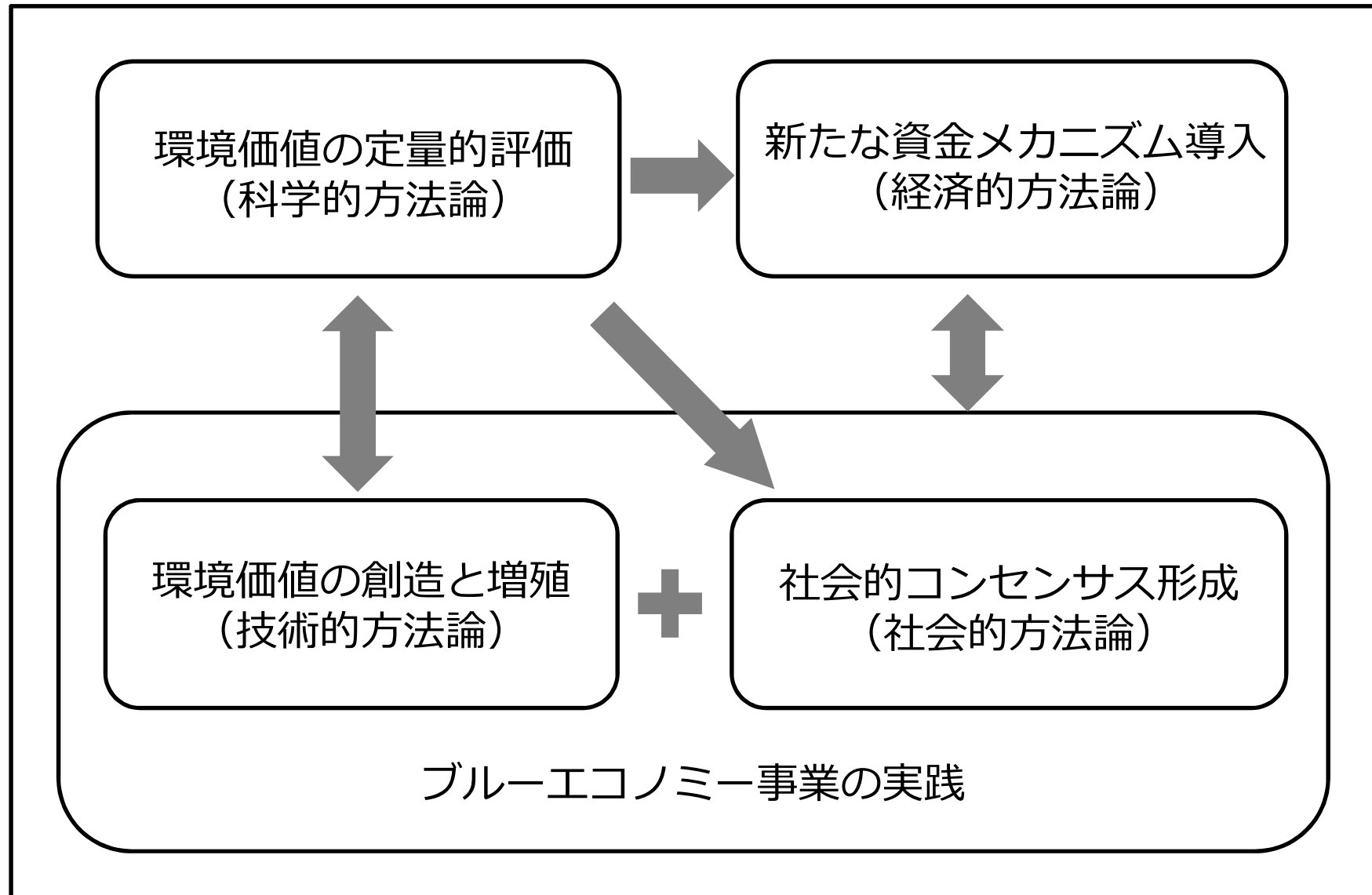


我が国においても大型海藻がメイン



132万トンCO₂/年

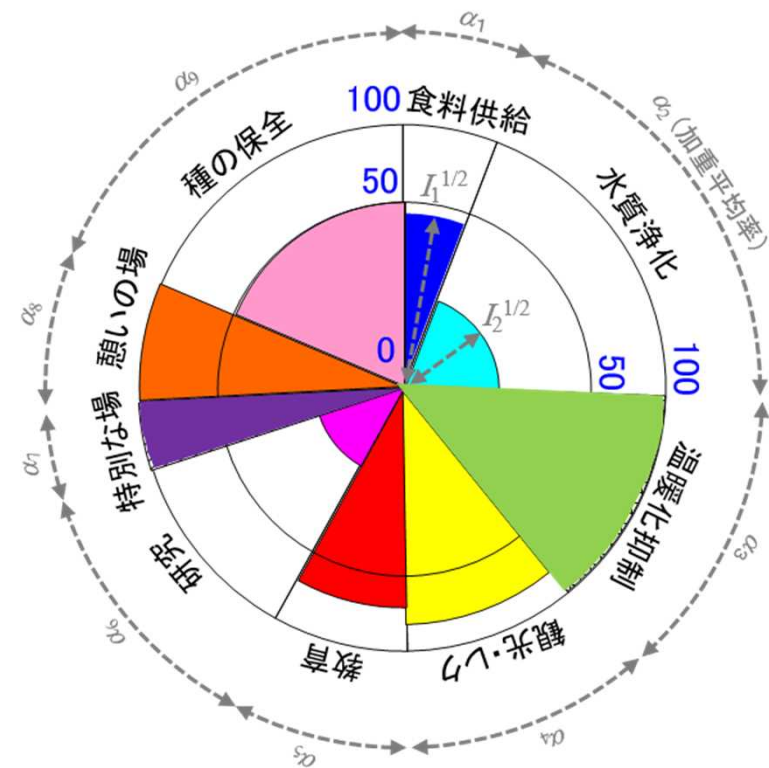
4つの方法論の開発



環境価値の定量的評価 (科学的方法論)



2020年4月発刊



藻場全体の環境価値
例えば6,000万円/ha/年